

ホームステイを通して

小・六 大井 璃鳳

「来週からホームステイする子をうちで受け入れることにしたよ。」

とお母さんが言いました。まず、ホームステイをしようと思った経緯は、お兄ちゃんが通っているサッカーチームで日韓交流として、韓国のテドンというところから遠せいに来る子どもたちのお世話をしてくれる家庭をば集していたからです。最初、お母さんから、

「ホームステイの受け入れをしようと思うんだけどどう？」
と相談されました。でも、兄弟全員

「いや。」

とそく答でした。ぼくの友達でもないし、家族の知り合いでもないのに、なんでお父さんとお母さんは引き受けようと思うんだろうと思いました。お母さんは、

「みんながいやならやめるね。」

と言いました。それからぼくは、ホームステイの話が気になって、お母さんになんで受け入れようと思ったのか聞いてみました。最初は、困っているならお手伝いしてあげたいと思っただけです。滞在期間は三泊四日というなかでご飯の支度や洗たくもしなければいけません。

「大変かもしれないけど、こんな経験あまりできないよ。」

となぜかお母さんは笑いながら言いました。大変ならやめればいいのにとぼくは思いました。でも、お母さんの話を聞いてみると、せ

つかくこんな機会があるなら経験させてあげたい、世界は広いんだよ！いろいろなことを学ばないと！とぼくたちのことを考えてくれていることが分かりました。それから家族で話し合い、正式にホームステイの受け入れが決まりました。

ホームステイでの一番の心配は話せるかどうかということです。ホームステイ当日、家で待っているとお母さんが三人の男の子を連れて帰ってきました。部屋に案内して、まず自己紹介をしました。韓国語は分からないので英語で、

「マイ ネーム イズ リオ。アイ アム イレブン イヤーズ オールド。」

と言いました。伝わったか不安でしたが、ちゃんと伝わったみたいでとてもうれしかったです。その後、夜おそかったのでコンビニに行きました。セブンイレブンを見ると、

「韓国にもある。」

と言っていました。どんなものを買うんだろうと見ていたら、どん兵衛や焼きそば、チョコレートやアイスなどを買っていました。僕たちと同じようなものを選んでいて、おもしろかったです。かえってみんなで食べる時、ぼくはきん張して一言も話せませんでした。結局その後も話せないまま一日目が終わってしまいました。

二日目の朝は、お母さんがホットサンドを作ってくれました。でも、あまり好きではなかったのか朝だからなのか、みんな元気がありませんでした。そのあとサッカーの試合を見に行きました。試合はすごいやり合いで、シュートも力強くてびっくりしました。みんな体格がよく、フィジカルも強くてとてもうらやましかったです。その帰り、

「日本と言えば、たこ焼きとお好み焼きだよ。」

とお母さんが言ったので買い物をして帰りました。たこ焼きとホットプレートを用意してみんなで作りしました。たこ焼きをひっくり返すたびに、かん声があがりました。とっても喜んでおいしいと言つて食べてくれました。かつお節は好きなようです。ぼくは韓国のラーメンを食べさせてもらったけど、とても辛くてびっくりしました。舌がヒリヒリして水がないと食べられませんでした。ご飯を食べた後はみんなでサッカーゲームをして遊びました。大盛り上がりでした。言葉は通じなくて、好きなことが同じなら関係ないんだなと改めて思いました。一日目より仲良くなつてうれしかったです。

三日目の朝ご飯は和食にしました。お母さんも考えて、これなら食べてくれるかなと試行さく誤していました。最後の夜ご飯は、初日の日から食べたいと言っていたおすしを食べに行こうと約束をしていたのでおすしを食べに行きました。注文する機械も日本語で分からないかなと思いましたが、韓国語や他の言語に変えられる機能があつてびっくりしました。ホームステイ中はふ段氣にしたことがなかったけど、ふと周りを見ると英語で書かれていたり、何か国語かで書かれていたりしていて、外国の人でも住みやすいようにくふうされていることに気づくことができました。おすしはたくさん食べていて、体が大きい理由が分かりました。ガリを食べさせてみたら、みんなすごい顔をしていました。でもわさびはふつうに食べていておどろきました。言語がちがってもニュアンスと身ぶり手ぶりで伝わることを知りました。

その日の夜、明日帰っちゃうのかと思うとさびしくなりました。最終日、最初はあまり興味がなく、いやだという感情が多かったけ

ど、最終日はまだいっしょにいたい、さびしいという気持ちでいっぱいでした。正直、自分でもそんな感情になるなんて思つてもいなかったもので、とてもびっくりしました。最後みんなで写真をとつて、覚えた韓国語で

「カムサハムニダ。」

と言いました。その後は日本語で、

「また帰つてきてね。」

と伝えました。伝わったかは分からないけど伝わったと思います。言語がちがっても一緒に過ごした時間は変わらないし、ぼくたちは家族のようだからです。このホームステイの受け入れでいろんなことを学び、いろんな発見をしました。びっくりすることも多かったです。今年の夏は、お兄ちゃんがホームステイに行きます。ぼくも来年ホームステイをしたいと思いました。そして、いろんな国を見て、いろんな経験をしたいです。